

DOUBLE DUTCH FLIGHT インプレッション

2007年に発売された45~55キロパドラー向け「CHICA」に続いて、今年発売された55~65キロパドラー向け「FLIGHT」に乗ってみました。

体重設定/55~65キロとなっていますが、65キロあると静水の直進時でもバウデッキに水がかかってしまいます。これでは沈みすぎ。感覚的には60キロ以下の方にお薦めです。



全体のフォルム/外見はさほどでもありませんが、ボリュームを抑えたいためか、乗ってみた感覚ではバウ部とスターン部が極端に薄い感じ。初めてプレイボートに乗った時に味わった、まるでたらいに乗ったような感覚。この感覚には慣れているはずなのに、あらためて感じてしまうのだから、「極端」という言葉を使っても良いと思いました。

バウ部/これも、見た目ではさほど違いが感じられませんが、乗ってみるとカイマン・トレロに比べるとバウ近くまでロッカーがある感じ。おかげで直進時にトレロほどバウが左右に振られませんが。静水での直進は明らかにカイマン・トレロより早いといえます。このためリーンも非常に楽で、初心者にも扱いやすいと思いました。

スターン部/カイマン・トレロに比べると中央部のマウントが目立ちスターンの先端まで伸びています。カイマン・トレロのスターンは平たく直進時に水の流がスターン部分にかかる分散するのに対して、中央のマウント部に集まって抵抗を感じる。つまり、キールがあるようなもので、やはり直進の安定性につながっています。その為ピボット時にはどうしてもバウが影響を受けて暴れてしまうので初心者には難しくなっています(カイマン・トレロはピボットが楽で、自然にバウがフラットに回転する)。

ターン/これもスターン部のボトム形状に大きく起因していますが、スムーズな回転をするカイマン・トレロに対して、「FLIGHT」は回転が非常にシャープと言えます。言い方を変えると、カイマン・トレロがスムーズな半面、横滑りしやすいのに対し、「FLIGHT」は中央のマウント部まで一気に沈み、そこから急に立ち上がるような感じ。どちらが良い・悪いではなく、乗り方の好みにつながる性格の違いといって良いでしょう。

CHICAに乗る矢澤亜季選手がタイトでショートなスタガーゲート時に見せる、軽快なのに鋭いターンは、このボートの特徴を良く表わしているように思えます。

2008年2月20日 小田弘美